

令和4年度

# 道標

第33号

秋田県立大館鳳鳴高等学校

# 目 次

令和4年度 第2回授業研修会

令和4年度 相互授業参観感想まとめ

実践的指導力習得研修の報告 ..... 国語科 伊藤 崇志

教職5年目研修の報告 ..... 地歴公民科 渡部 拓

実践的指導力習得研修の報告 ..... 数学科 宇佐美 圭介

実践的指導力習得研修の報告 ..... 地歴公民科 三森 朋恵

中堅教諭等資質向上研修の報告 ..... 数学科 石木田 将宗

中堅教諭等資質向上研修の報告 ..... 英語科 田畑 隆之

中堅教諭等資質向上研修の報告 ..... 国語科 畠山 智道

編集後記

題字 畠山 智子

# 令和4年度第2回授業研修会

## 【テーマ】

アウトプット活動を通して学習事項の深い理解と知識の定着を図る。

## 【実施日】

令和4年11月7日（月）6校時

11/7（月）の日程

①～⑤ 通常授業

13:55～14:25 SHR・清掃（1年A組と2年AB組の世界史B選択者以外は放課）

⑥ 14:30～15:20 研究授業（地歴・家庭）

15:30～16:20 研究協議会

## 【授業一覧】

時間	教科	科目	授業者	クラス	使用教室
6校時	地歴	世界史B	三森朋恵	2AB (世界史B選択者)	2A
6校時	家庭	家庭基礎	田山妙子	1A	1A

## 【研究協議会】

教科	場所	時間
地歴	会議室	15:30～16:20
家庭	視聴覚室	15:30～16:20

# 地理歴史科（世界史B）学習指導案

日時 : 令和4年11月7日（月）6校時  
場所 : 2年A組教室  
対象 : 2年AB組選択者（25名）  
授業者 : 三森 朋 恵（大館鳳鳴高校）  
教科書 : 詳説世界史B（山川出版社）  
副教材 : ニューステージ世界史詳覧  
（浜島書店）

## 1 単元（題材）名 第Ⅱ部，第5章 ヨーロッパ世界の形成と発展， 3 西ヨーロッパ中世世界の変容

### 2 単元（題材）の目標

- （1）ヨーロッパ世界の変遷に関心を持ち，意欲的に学習に取り組んでいる。（関心・意欲・態度）
- （2）封建社会の形成や変容について，宗教・地域・東西交流の側面から考察する。（思考・判断・表現）
- （3）既習内容を参考にしながら地図や資料を読み取り，論拠に用いることができる。（資料活用の技能）
- （4）キリスト教を共通の基盤とした西ヨーロッパ世界について，既習内容を踏まえて捉えることができる。（知識・理解）

### 3 単元（題材）と生徒

#### （1）単元（題材）

本単元では，中世ヨーロッパ社会における封建社会の変容を扱う。西ヨーロッパ世界で普遍的権威であったローマ＝カトリック教会や神聖ローマ帝国と同時に，後に台頭していく各国王や市民層の基盤形成を扱う単元でもある。既習内容であるイスラーム文明やビザンツ帝国，ローマ＝カトリックの学習を踏まえ捉えさせたい。当時の世界を把握する上で重要な枠組みを学習する単元であるが，表現が抽象的になりやすい面があるため，型としての理解と生徒に具体的イメージを持たせることの両立を果たすことが必要となる。

#### （2）生徒観

落ち着いて授業に臨んでおり，学習活動にも前向きに取り組んでいる。一方，時として質問等に躊躇する様子があり，学習内容が進む中で，地域を越えるタテとヨコのつながりの理解に課題を感じる場面も見受けられる。既習内容を生かしながら考え，発展・応用的な発言につなげていく手立てを試みたい。

#### （3）指導観

キリスト教を基盤としたヨーロッパ封建社会を取り扱う単元であるが，学習内容のよりよい理解のためには，具体的事例を提示しつつ実感的理解につなげるための方法をとらなくてはならない。そこで，本時では十字軍の学習を媒介としながら，当時のイスラーム世界・東ヨーロッパ世界との関係性や，キリスト教の権威の変遷等について，人的物的移動を視覚化することを試み，知識の統合化を図りたい。

### 4 単元（題材）の評価規準

	（ア）関心・意欲・態度	（イ）思考・判断・表現	（ウ）資料活用の技能	（エ）知識・理解
評価の観点	西ヨーロッパ社会の形成や変容について捉えようと，既習内容を振り返りながら臨んでいる。	ローマ帝国期からの変化や，ゲルマン人やイスラーム勢力等，東西交流等の側面から，封建社会について考察している。	地図や諸資料を基に学習内容を捉え，思考を深める材料にするとともに，説明の論拠としている。	キリスト教と神聖ローマ帝国を軸としながら，西ヨーロッパ世界の基盤が形成されていたことを把握している。

### 5 単元（題材）の指導計画

- （1）十字軍とその影響 1時間（本時）
- （2）中世都市の成立と発達 1時間
- （3）教皇権の衰退 1時間
- （4）中央集権国家の形成 2時間



●教科・科目[ 地理歴史 (世界史 B) ]

授業者[ 三森 朋恵 ]

研究協議会参加人数 [ 18人 ]

「研究授業について」

①授業者が重視した点 (  a、b  )

- a. 生涯にわたって学び続ける意欲の向上
- b. 社会人としての基礎的資質・能力の育成
- c. 自然体験，社会体験等の充実
- d. 発達に応じた指導の継続性
- e. 家庭・地域と連携した教育

②授業者の感想

- ・十字軍をどのように焦点化するのが難しかった。
- ・生徒は意欲的に頑張ってくれていた。
- ・短いながらも難しい内容をどのように文章化するかがテーマであったが、シートからすると生徒はできているようだった。
- ・学習課題の共有化がもっとできていれば後半に時間を持てたかもしれない。
- ・イスラームの知識をまとめて総合的に考えるのは難しい部分があったようだ。

③参観者の感想・意見

- ・数学が苦手な生徒が活躍している姿が印象的だった。(宇佐美)
- ・プリントにまとめていく形だったので、発言が苦手な生徒も頑張っていた。(木村)
- ・文章化する作業がよかった。(渡部知)
- ・徐々に目標への流れがわかっていってよかった。プリントを回覧するスタイルも良かった。(加藤)
- ・電子黒板に教科書のページなどを指示しているのが良かった。最後の方で疑問形の問いを残すと次時につながっていくと感じたので真似したい。文章化は難しく考えがちだが、書かせる作業の大切さを感じた。(伊藤)
- ・口頭で答えると辻褄が合わない回答も出てくるが、プリントで文章化することで発表しやすくなっていた。十字軍の失敗理由が気になった。これを考えさせても面白いと思った。(浅野)  
→失敗理由は個人、国家の利害関係があり、キリスト教がまとまりきれなかったことが理由と思われる。(三森)  
→十字軍というものはこうだというものがあるか。(浅野)  
→第1回～4回のところが重要だと考えている。(三森)
- ・聞いていてわかりやすい授業だった。文章化するのがよかった。英語でも全体ではなかなか話せないが隣同士では話すので、もっとグループ学習を習慣化(机の移動・役割分担など)させていくと良いのではないか。教科書に「十字軍の変化のポイント」は書かれているので、ヴェネツィア商人の内容など教科書にない部分を掘り下げた方がもっと面白いのではないか。(青山)
- ・人前で話すのが苦手な生徒だが、問いかけに考える時間もあってよかった。静かな生徒にどのように発言を引き出すかを見たいし、理解も深まるのではないか。(桜井)
- ・文章を書く作業が良かった。電子黒板に映した資料集の画像がきれいだったが、どのようにしているのか。(石木田)  
→今回はスキャンして取り込んだ。インターネットから持ってくることもある。資料集を使いこなす能力も身に付けてほしいと思っている。(三森)
- ・プリントが教科書の内容に沿っているので、話し合う必要性が難しくなる。知識の注入が終わった段階で十字軍の変遷のポイントを話し合わせた方が総合的にまとめられて良かったのではないか。世界史の興味関心を深めるような仕掛けや問いかけがもっとあると世界史に興味を持

- つ生徒が増えるのではないか。(下田)
- ・このプリントは予習をしているか。(木次谷)
- 今回のプリントはしていない。(三森)
- 自分の内容を直さなくても良いという発言が良かった。予習していればそういう展開もしやすいのでは。(木次谷)
- かつてよりは文章化できないので、今回は予習よりもその場で考えさせる形になった。(三森)
- 聖地についてはすでに勉強しているのか。(木次谷)
- 都市名はすでに学んでいる。(三森)
- 社会は予習の必要性を感じない。教科の特性もあると思う。(今畠)
- ・1ページの内容を1時間じっくりかけて丁寧に展開している。導入で一気に説明して、じっくり考えさせるという形が参考になった。一方で教科書を抜き出しただけになってしまうという課題もある。生徒が聞く時間が長いと集中力がなくなるので工夫があっても良いのではないか。(佐藤健)
  - ・声が大きく、元気があってよかった。ペースがゆっくりしていて聞きやすかった。説明と作業の配分が課題だと思う。教師が教える意味を持たせていくために、例えば電子黒板に動画を提示することや、最新の研究内容を発問してもいいのではないか。(肥田)
  - ・生徒の発言を引き出しやすいように丁寧に発問していた。その分、間延びも見られた。「～そう」という発問の語尾が気になった。十字軍を選んだのはなぜか。(渡部拓)
- 進度の関係が一番大きい。文章化に焦点化した。単元としては切れているが、内容としては続いている感じだった。(三森)
- ・今まで簡単にできたことが「読む」、「文章化する」という作業ができなくなってきた。教科書の太字は11個あった。自分だったらそれを説明するような形を取る。自分でも予習をさせたことはない。できる生徒は指示しておくで、どんどん進んでいく。問題演習に関しては、どういう出題のされ方をするかを話しても良いのでは。電子黒板を活用していて良かったが、模式図を書いたりしてもよかったかもしれない。少年十字軍の話もあるので、小話をして面白いかも。インノケンティウス3世は王権と教皇権の対比などの関係からも重要なので、もう少し踏み込んで説明してほしい。なぜ失敗したのかではリーダーがしっかりまとめ上げていると成功しているので、その点に触れても良かったかもしれない。(成田康)
- インノケンティウス3世は既習事項であった。(三森)
- ・ヴェネツィア商人の内容に焦点化するともう少し面白かったかもしれない。(佐々木)
  - ・グループよりも2人1組にして行くともう少し発言しやすい。偏差値のベンチマークがあると生徒も取り組みやすいかもしれない。(今畠)

#### ④協議事項

##### ○進度について

- ・進度が気になった。社会科はゆっくりということか。(桜井)
  - ・ベンチマーク的な問題がなかったが、いつもないのか。(今畠)
- 今回は研究授業でグループワークもあるので3ページくらい。世界史Aも履修しているので普段はもう少し早い。世界史Aで扱った内容は演習量を増やしている。年々、文章化の力が落ちてきているように感じるので今回はそれを焦点化した。(三森)
- 本時の内容で解ける問題を自分は用意して1時間のまとめにしているが、そういう形は取らないのか。(今畠)
- そういう時間もある。(三森)

##### ○問題を演習して終わるなど1時間の構成として、他教科はどうか。(今畠)

- 理科は解くことが普通。(桜井) 解かない時もある。(渡部知)

# 大館鳳鳴高等学校 家庭科「家庭基礎」学習指導案

日時：令和4年11月7日(月)6校時  
対象：普通・理数科1年A組(35名)  
場所：1年A組教室  
教科書：Creative Living(大修館書店)  
授業者：田山妙子

## 1. 単元名

自分らしい将来のためのマネープラン ～資産形成とリスクマネジメントの重要性～

内容のまとめり	C 持続可能な消費生活・環境・・・(1) 生活における経済の計画 (2) 消費行動と意思決定 A 人の一生と家族・家庭及び福祉・・・(1) 生涯の生活設計
---------	--

## 2. 単元の目標

- (1)家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理の重要性について理解することができる。
- (2)生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について、ライフステージを考慮しながら関連付けて考察することができる。
- (3)生涯の生活設計や、生活における経済活動とその計画について主体的に取り組み、生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

## 3. 単元と生徒

- (1)生徒について(生徒観)  
オンラインショッピングやキャッシュレス決済の拡充など、高校生を取り巻く経済環境は日々変化している。生徒の実体験や価値観を引き出しながら、社会経済とのつながりについて考えさせたい。
- (2)教材について(教材観)  
生涯を見通した経済計画の必要性を理解し、家計管理やリスクマネジメント、資産形成などに関する学習を通して、自立した消費者として行動できる力をつけさせたい。
- (3)指導について(指導観)  
グループワークによるケーススタディを行うことにより、多様な価値観や手立てがあることに気付かせたい。また、18歳成年制度により変化した事項については、特に丁寧な説明を必要とする。

## 4. 単元の評価基準

(ア)知識・技能	(イ)思考・判断・表現	(ウ)主体的に学習に取り組む態度
◎家計の構造や生活における経済と社会との関わり、家計管理について理解している。 ◎消費者の権利と責任を自覚して行動できるよう消費生活の現状と課題、消費行動における意思決定や契約の重要性、消費者保護の仕組みについて理解しているとともに、生活情報を適切に収集・整理できる。	◎生涯を見通した生活における経済の管理や計画の重要性について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。 ◎自立した消費者として、生活情報を活用し、適切な意思決定に基づいて行動することや責任ある消費について問題を見いだして課題を設定し、解決策を構想し、実践を評価・改善し、考察したことを根拠に基づいて論理的に表現するなどして課題を解決する力を身に付けている。	◎様々な人々と協働し、よりよい社会の構築に向けて、生活における経済の計画について、課題の解決に主体的に取り組んだり、振り返って改善したりして、地域社会に参画しようとするとともに、自分や家庭、地域の生活の充実向上を図るために実践しようとしている。

## 5. 単元の指導計画(8時間)

- (1) 家計の構造と社会……………1時間
- (2) ライフイベントとマネープラン……3時間(本時1/3)
- (3) 18歳で変わる消費生活……………3時間
- (4) 生活設計と家計の関わり……………1時間



## 6. 本時の指導(2/8時間)

### (1)目標

自分らしいライフコースに合わせた経済計画の必要性がわかる。

### (2)授業の展開

過程	学習活動	指導上の留意点	評価の観点
導入 (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・前時の内容を確認し、本時の目標を把握する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・既習事項を確認し、本時の目標を提示しながら学習内容を知らせる。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>目標:自分らしいライフコースに合わせた経済計画の必要性がわかる。</b> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グループで高卒後の人生で起こりそうなことを予測する。</li> <li>・リストアップした事項を発表する。</li> <li>・発表事例から、生涯を見通した経済計画が必要なことを確認する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・予測がリスクに偏っている場合は、ほかにも目を向けるよう助言する。&lt;机間指導&gt;</li> <li>・リスクは単元の最後に扱うことを伝える。</li> <li>・発表は、その他の事項についてとし、3グループを指名する。</li> <li>・発表事例を自分事として考えるよう促し、経済計画の必要性を伝える。</li> </ul>	
展開 (30分)	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>(1)自分が希望する生活に合わせた経済計画を立てる</b> </div>		
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望するライフイベントを挙げ、その費用の見積もりをする。</li> <li>・事例の試算を通し、長期計画と短期計画のイメージを持つ。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板にライフイベントの例とその費用を提示する。</li> <li>・数字を出してイメージすることで、計画の必要性に気づくよう誘導する。</li> </ul>	
	<div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;"> <b>(2)希望する生活に必要な資金の準備方法を考える</b> </div>		<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分らしいライフイベントとその費用について、主体的に考えようとしている。(ウ)</li> </ul>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・(1)で挙げたライフイベントの資金について、準備を始める時期や方法を考える。</li> <li>・金融商品の種類を知る。</li> <li>・計画を立てるうえでの課題を見つけ、グループで意見交換後、全体に発表する。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフイベントの種類や時期によっては、準備も異なることを助言する。</li> <li>・教科書p109図表⑤⑥で確認することを指示し、詳細については次時に学習することを知らせる。</li> <li>・発表は、3グループを指名する。&lt;机間指導&gt;</li> <li>・課題の解決には、今後の学習内容にヒントがあることを伝える。</li> </ul>	
まとめ (10分)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の振り返りをする</li> <li>・次回の学習内容の確認</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・希望するライフコースによっては、準備方法が異なることを補足する。</li> <li>・次回は、金融商品と資産形成について学習することを伝える。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ライフコースの実現には経済計画が必要なことがわかる。(ア)</li> </ul>

●教科・科目[家庭科「家庭基礎」]

授業者[ 田山 妙子 ]

研究協議会参加人数 [23人]

「研究授業について」

①授業者が重視した点 (  b.d  )

- |                      |                       |
|----------------------|-----------------------|
| a. 生涯にわたって学び続ける意欲の向上 | b. 社会人としての基礎的資質・能力の育成 |
| c. 自然体験，社会体験等の充実     | d. 発達に応じた指導の継続性       |
| e. 家庭・地域と連携した教育      |                       |

②授業者の感想

- ・今回の授業研修のテーマである「アウトプット活動」に焦点を当てて行った授業である。
- ・現状、理解しなければならない内容の多さを考えると今回のようなアウトプットをメインに授業を毎時間行うことは難しい。
- ・とにかく生徒に話させたいという思いがあった授業で、実際に生徒が意見を活発に出してくれたのでクラス全体で共有することができた。

授業のねらい、意識したこと

- ・授業研修会学習指導案の P5 で内容のまとまりの C が高等学校学習指導要領の 8 章、A が 1 章と本来は別の取り扱いではあるが、近年叫ばれている教科の中での横断的な授業を意識して内容のまとまりを制作した。
- ・本来取り扱うべき時間よりも短い時数で計画を立てていたもので駆け足だったが、ワークシートを使用し書き出すことで生徒も考えることが出来ていた。
- ・ライフイベントを例に挙げて、資金を考えたり、借り入れしたりするのかお金の出所を考える。借り入れの細かな返済プランに関して考察している生徒もいたが、次回以降に取り扱うことを説明し、今回の授業ではどれくらいの資金が必要かを実感してもらった。(気づかせる)

③参観者の感想・意見

渡部 (均) 先生

指導案を読んだときは、授業のまとめ部分が大人でも難しいという印象があったが、8 時間構成の 2 時間目ということで、気づかせるという授業だという説明を受けて納得したし、金融商品、リスクマネジメントについてなど、自分自身も勉強しないと、と実感したので生徒も同じように思ったと思う。次時につながりのある授業だった。

佐藤 (浩) 先生

- ・教科横断的に内容を構成していたことが素晴らしかった。また、家庭科の中で今回の内容 (マネープラン) を取り扱っているということが、自分が学生の時に受けていた家庭科の授業を異なっていて新鮮だった。
- ・内容としては正直難しい。理解するのがまず難しいし大人でも理解して説明出来るかと問われると迷う内容である。その中でも生徒は生徒なりに考えてグループで共有して一生懸命取り組んでいた姿勢が見られた。その理由としては、まとめで課題だと思ったことを書き出させていたのがよかった。ただ難しいでは無く、難しいのはなんで？と自分で考えることで必要な知識がどんなものなのかビジョンが見える。今回出たものだと、資金を使う優先順位がわからない、収入って実際どれくらい？そもそも進学できる？など。次回以降の資金の準備する方法は特に大切になるので次回以降の授業がとても気になる。

### 奥山先生

- ・まず始めにクロームブックを筆記用具のような形で当たり前のように使うことが出来ている生徒の様子をみて、授業の中でも場面に応じて使うことが大切だと思った。
- ・浩二先生の話しでもあったように、課題の難しさをとても感じる内容ではあったがそれを生徒自身の言葉として表現させたのが素晴らしい。それによってワークシートで順番に行ってきた授業がばっちりにつながった。
- ・数学だと、なかなか同じように自分で課題の難しさを出すことができない。があえてやらせることで自分の苦手な部分があるのか分かるのでは無いかと思いとても参考になる授業だった。

### 成田（洋）先生

- ・音楽の授業でも自由に意見をさせる授業形態を行うが、最後にまとめにつなげるのが難しい時が良くありとても参考になった。
- ・音楽だとできる生徒とできない生徒の差が激しいので自由に意見を出すこと自体が難しい上に、それを評価するのが難しい。グループ活動をどのように評価するのが今後の課題であると思った。

### 高橋

- ・分かろうとする姿勢をどのように評価するかについて。  
自分の専門である国語の授業から意見を述べると、「わかる」「わかろうとする」「わからない」という項目にわけて、それはそれぞれ何が原因なのかを考えさせる。その後で本当に相手のことをわかるとはどういうことなのかということ考えた授業でまとめさせたりした。
- ・ライフイベント＝リスクと思っている生徒が多かったが、危機管理のリスクマネジメントは後でやるから、まずはポジティブな方を挙げて、資産運用に関して取り上げるということを上手く誘導していた。
- ・ワークシートのまとめであまり書かなくていいよとおっしゃっていたが、書いた分量もアウトプット型の授業では評価するポイントになるので書かせると良いのでは。

### 田村

- ・英語では他教科に関連する文章を読むので横断的な授業として取り入れやすいので、他教科との時期を合わせることも出来るのではと思った。
- ・英語では、読んで→理解するという流れの授業が多いので、答えがないことに対する思考は生徒にとってリアルな問題なので良いなと感じた。

### ④協議事項

- ・教科横断的な授業作りの難しさ。他教科ではどのように行っているか。
- ・新課程になって評価が3つになったこと以外で難しいこと。
- ・他教科と同じような時期に似た内容ができないか。教科横断的に出来ないか。

令和4年度 相互授業参観週間 感想（まとめ）

科目	学年	感想
地理B	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「3人に説明する」という課題の出し方が新鮮だった。</li> <li>・課題を終えたら名札を移動させるという方式は教師も級友もフォローし易いと思った。</li> <li>・学習進度をゆっくりめにして、その分教え合いなどの活動に時間をとっている。</li> <li>・図を写し出すなど解説がとても丁寧だった。</li> <li>・地理と地学の関わりが参考になった。</li> </ul>
地理B	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・頻出用語がはっきり分かる。（「大切！」「☆三つ」など）</li> <li>・「学び合い」の意義を浸透させている。幸せになるため……ステキです。</li> <li>・安定陸塊のスケールがわかりやすかった。ケスタもそうだが、モデル図を書かせることで生徒は頭の中が整理される。</li> <li>・生徒をひきつけるトークテクニック</li> <li>・プリントとノートを分け、「書かせる」活動の確保</li> </ul>
地理B	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・重要な点が一目で分かる方法は是非真似したいです。</li> <li>・農業や食べ物との関連は、話が非常に興味深く、引きつけられました。</li> <li>・覚える点が多い部分に関しては、こちらも小テスト等多めにしていこうと考えさせられました。</li> <li>・日常生活や既習事項との関連から様々に話がつながっていくのが面白かったです。</li> <li>・入試を意識したお話も所々含まれ、共通テストを意識を向けさせる工夫だと学びました。</li> <li>・書画カメラの活用、自分もたくさんしていきたいです。</li> <li>・学び合いの仕掛けに驚きました。こちらも真似したいです。</li> </ul>
化学	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ポイントの整理→グループワーク→演示実験で確認という流れとテンポが良かった。演習問題で解いたものを実験で見たことで理解が深まったと思う。</li> </ul>
言語文化	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ク活用の覚え方が工夫されていました。（指を動かすなど）</li> <li>・文法書を電子黒板に映し出して解説するのは分かりやすいと感じました。</li> <li>・生徒に「ここまで大丈夫ですか？」と問いかけ、確認しながら進めていましたが、とても親切で良いと思います。生徒も安心すると思いました。</li> <li>・ペアでアウトプットするなどとても良い工夫だと思います。</li> </ul>
数学I	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・グラフの書き方や、上に凸と放物線の形の関係について、分かりやすく説明している。</li> <li>・「<math>y = 2x^2 + 1</math>のグラフは<math>y = 2x^2</math>のグラフとどのような関係にあるか」と問いかけ、主体的に考えるきっかけを作っていて良いと思った。</li> </ul>
地理B	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板の活用→カメラよりもスピーディー、ネットの活用</li> <li>・色々な細かい知識→仏教、中央アジア、西アジア、FBI</li> <li>・プリントの内容が素晴らしい！！（神プリント！！）→演習の内容も適切</li> <li>・用語がしっかりしている→敷設、容易など</li> </ul>
地理B	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・すべて暗記するのではなく、大まかにとらえていく。これは化学でも大切なやり方で、こちらも見習って声かけしていきたいです。</li> <li>・検索して写真資料提示。単純ですがなかなかその発想に至らず、真似したいと思いました。</li> <li>・いまいちピントのずれた生徒にも気づかせる誘導が巧みだと思いました。</li> <li>・良い意見を持った生徒を見つけ活躍してもらおう点が素敵ですね。</li> </ul>

コミュニケーション英語Ⅲ	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ICTを活用して、テンポよく内容も濃いwell organized な授業でした。</li> <li>・フラッシュカードや文構造分析など、かなり速いスピードでもついて行く生徒を見て、鍛えられていると思いました。</li> <li>・本文のフレーズを用いた表現活動で、生徒がchallenging な内容で挑戦していて、いい雰囲気だと思いました。</li> </ul>
化学	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プリントをデジタル化し、書き込んでおり、授業の進度が把握しやすい。</li> <li>・原理・原則をもとに思考する場面が設定されており、個で考える⇒グループで考える⇒演習の流れがスムーズだった。</li> <li>・陽イオンの移動を平衡の観点から説明しており、わかりやすかった。</li> </ul>
数学Ⅱ	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・みんな一生懸命取り組んでいて、すごいなあと思いました。</li> <li>・「一回顔上げて」「隣を確認してみて」という指示が一回でパッと通っていてすごいなあと思いました。</li> </ul>
言語文化	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・語句の解説を中心に丁寧に進めていました。</li> <li>・「映像化して読む」という言葉がすばらしかったです。</li> <li>・ICTもうまく活用できていました。</li> </ul>
言語文化	1	<ul style="list-style-type: none"> <li>・文法の確認を丁寧に、授業を進めていました。</li> <li>・一つずつ確実に理解できるよう、間を確保していたところがよかったです。</li> <li>・アウトプットの時間・ふりかえりの時間もしっかりとれていました。</li> </ul>
地理B	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒が制限時間を気にしながら、答なき問題に取り組み、自分の意見(考え)を説明して納得させる授業展開。しかも3人も。</li> <li>・席が自由ということでグループにする必要がない。</li> <li>・書画カメラを使いこなしている。(勝手に思い通りの色にペンがなってくれるまでなじんでいる)</li> <li>・時間的な制約により授業を受ける側の集中度が増している。</li> </ul>
古典B	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・古単語サクサク進み、(誤答への指導もあり)テンポが良い。「あたらし→もったいない」「あらたし→新しい」の派生+α知識がある。</li> <li>・生徒の予習を信じていて、生徒の誤答を生徒達が協力して正しく訂正・追加されていき、挙手も積極的に(促さなくても)発表している。「誤答」を指摘されても、自分の誤りに気づくため定着し易い。</li> </ul>
現代文B	2	<ul style="list-style-type: none"> <li>・本時の流れの説明後、今やるべきことの指示と活動が明確化されていた。</li> <li>・1年時で指導してきた記号化を継続して行うことで定着が図られている。</li> <li>・予め設定した(解答を求める)問いを心情表現で読み解く学習活動から“告白”を理解させようとしている。</li> <li>・3つの問いに1コ2分の6分間の活動がベストマッチでした。</li> </ul>
現代文B	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・先生の教材に対する思いが入っているので、感情が伝わり、生徒が聞き入っている。</li> <li>・生徒の発言に対するリアクションがいい。</li> <li>・先生の熱意を感じました。私も頑張ります。</li> </ul>
物理	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・電子黒板、黒板、生徒数名、テニスボールを使い、何を知りたいのかを、生徒全員に理解させ、全員で解決するように導いていて素晴らしかった。</li> </ul>
化学	3	<ul style="list-style-type: none"> <li>・有機化学～理論的にわかりやすく構成されていた。</li> </ul>

コミュニケーション英語 I	1	<ul style="list-style-type: none"><li>・授業のはじめに今日の学習内容が確認されていて、見通しをもって参加できていた。</li><li>・一年生らしい生き生きした反応があり、先生がそれをうまくいかしていた。</li><li>・パフォーマンステストが行われていたこと。自分の文を作り、それをペア、グループで伝える、メモをとる活動で「四技能が統合的に」という目標に近づいていた。</li></ul>
---------------	---	---

## 1. はじめに

今年度は学級経営や部活動顧問、公務分掌の仕事などを昨年以上に考えながら従事することができた。また教科指導の面でも、所属する 1 年部の新課程において新たな取り組みを実施することができた。反省と次年度の目標を見定める意味で今年度を総括し、報告とする。

## 2. 研修内容

### (1) 校内研修

クラス担任を受け持ち生徒と接する場面が増えた今年度は、様々な研修をより実践を想定して受講することができた。特に臨床心理士の駒ヶ峯先生の講話では、生徒対応の在り方を再度見直し、実践に活かすことができたように思う。探究活動や小論文の講習会では 生徒の主体性に任せるのではなく生徒の主体性を活かすための指導が必要であると学んだ。

また、10 月の研究授業と 12 月の全県国語教育研究大会と、今年度も 2 回発表の場面をいただいた。昨年に引き続き ICT 機器を効果的に用いることをテーマに授業を実践したが、強く感じたことはこれまでの授業の在り方が本質的に変わった訳ではないということである。新課程となって授業を構築する視点の変化はあったが、授業はあくまでも生徒の学びが目的であり、ICT 機器を用いることが目的ではない。思考を深めるためのツールとして Jamboard や Google フォームが必ずしも適切であるとは限らない。実際に全県国語教育研究大会でも従来のグループ学習に近い形式の方が、思考が深まる傾向が見られた。実は、このことは教育センターで行っていた教科研修でも繰り返し確認していたことでもある。目先の課題に惑わされて授業の本質や目的を見失うことがないように、原点に立ち返ることを意識して生徒と向き合い続けたい。



全県国語教育研究大会 (12/1)

### (2) 校外研修

今年度の校外研修の一つに学校の教育目標とホームルーム経営というものがあり、とても示唆に富む内容であった。今年度はホームルーム経営という側面で難しさを感じるものが複数あり、自身の課題となっていた。前期を終える頃にこの研修資料を見返し、学校の教育目標という原点に立ち返ることが大切であると意識できたことが印象深い。

また、教科研修としては 8 月に他教科の模擬授業を受ける機会があったのだが、残念ながら感染症予防のため欠席することとなってしまった。後に指導案を見せていただくことはできたが、普段触れることのない貴重な機会であったため残念でならない。

## 3. 今後に向けて

来年度は採用 3 年目となる。まだまだ反省を繰り返すかもしれないが、今年度の研修で得た原点に返ることを忘れずに生徒と接していこうと思う。そのためにも、目先の課題のみに惑わされないよう心がけ、生徒ともに目標を見定めて行動を選択していきたい。

## 教職5年目研修講座（高等学校）の報告

地理歴史・公民科 渡部 拓

### 1. はじめに

本講座は教職5年目を迎えた教諭を対象に、学校組織マネジメントの意識を高め、学習指導や学年経営、生徒指導等についての実践的指導力の向上を図るものとしてI期、II期に分けて実施された。

### 2. 研修内容

#### 【I期】

#### (1) 教育相談と人間関係づくり

生徒の行動の目的とそれに対する対応を心理学から学ぶことができた。「傾聴の姿勢」や「カウンセリングの技法」、「人間関係づくり」について具体的に学ぶことができ、実践力を身につけることができた。

#### (2) 学校組織の一員として—マネジメントの視点—

地域や家庭に学校が何を求められているかを考える良い機会となった。学校の教育目標や重点目標と理解した上で、授業において生徒に身につけさせたい力を明確にしていきたい。

#### (3) 生徒の実態を踏まえた授業改善①

「自校の生徒の実態を踏まえた授業展開の工夫と実践上の課題」のテーマのもと、授業改善についてレポートにまとめ、参加者で意見を交換した。生徒に身につけさせたい力を明確にして、日々の授業を改善していかなければいけないと感じた。

#### 【II期】

#### (1) 発達障害のある生徒の理解と支援

発達障害のある生徒の理解のために、特別支援教育の現状を学んだ。障害の判断や診断の意味にとらわれるのではなく、生徒の行動をしっかりと観察することが重要であり、一人ひとりの教育的ニーズを見極めていかなければならない。また、二次的障害について、「かかわり」や「環境」づくりにも留意していく必要性を学んだ。

#### (2) 生徒の実態を踏まえた授業改善②

I期に設定した課題の解決に向けて取り組んだ授業改善の成果と課題を報告した。改めて、生徒に身につけさせたい力を明確にして取り組む重要性を学んだ。日々の授業において、探究するテーマを設定して、資料を踏まえて活動を行わせていく。このような授業のサイクルを理想として取り組んでいきたい。

### 3. 今後に向けて

今後、問題解決型の授業の取り組みや学年経営への参画を積極的に行い、自らの個性・適性・分掌等に応じた資質能力を向上させて、研修の実践を活かしていきたい。



## 1. 研修の目標

自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

## 2. 研修内容と感想

### 【Ⅰ期】

#### (1) <講義・演習>不登校の未然防止と対応

不登校の生徒が出ないような環境作りが大切であると感じた。年度初めに学級における役割や、仲間をつくらせることによって生徒が学校に来やすい、来たいと思える環境を整えなければいけない。また、不登校傾向の生徒が出た場合も状況に応じて、職員同士が連携を取りながら対応していかなければいけない。

#### (2) <講義・演習>学校組織の一員として—自己理解に基づく目標設定—

自分の強みや弱みについて考える良いきっかけとなった。特に、弱い部分に関しては他の教員と連携し、改善していかなければいけない。

#### (3) <講義・協議・演習>カリキュラム・マネジメント

勤務校をよりよくするために、様々な面から学校について評価し、改善を続けていかなければいけない。

### 【Ⅱ期】

#### <協議・演習>授業評価による継続的な授業改善

研修者が歴史総合、保健、商業、数学の授業をしている動画を拝見し、授業についての協議をした。教科の特性もあるが、発問や生徒とのかかわり方、授業の進め方などについて考えさせられた。数学においては、グループワークを取り入れ、自由な発想をさせるのが難しく、そのような授業をあまりできていないが、発問の仕方を工夫するなどして取り入れた方が生徒の理解が深まるかもしれない。どのような場面でどのように取り入れるかを考えてみたい。

また、生徒に主体的・対話的で深い学びをさせるためにはどのような授業をしなければいけないか考えなければいけない。ICT 機器を活用して視覚的にわかりやすくしたり、時間短縮をすることで話し合いの時間を増やしたりすることは効果的であると感じたため、どのように授業に取り入れるかを考えてみたい。生徒の最適な学びの手助けをするため、日々の授業改善に取り組まなければいけない。

## 3. 今後に向けて

教職8年目となり、分掌において重要な役割を任される機会が増えてきたと感じている。勤務校が生徒や保護者、地域から求められている期待に応えるために、教職員の一人として何ができるかを考え、実践していく必要がある。また、教科指導においては、日々の授業改善に取り組むのはもちろん、生徒の進路目標を意識し、3年間を通して計画的に指導をしなければいけないと感じている。今回の研修を通して学んだこと生かし、生徒理解に努めるとともに、学校組織の一員としてより良い学校づくりに貢献していきたい。

# 実践的指導力向上研修講座(高等学校8年目)報告

三森 朋恵

## 1 はじめに

日々勉強の毎日だが、8年研修を迎えることとなった。以下に概要を記し報告としたい。

## 2 研修の目標

自己理解に基づき、個々の個性・適性、分掌等に応じた資質能力の向上を図る。

## 3 研修の内容

- 6 / 15 (水) 不登校の未然防止と対応 (講義・演習)  
学校組織の一員として - 自己理解に基づく目標設定 - (講義・演習)  
カリキュラム・マネジメント (講義・演習)
- 8 / 8 (月) 授業評価による継続的な授業改善 (協議・演習)

## 4 研修の報告

I期は、これまでを振り返り、今後の教員としての自らの方向性について考える良い機会となった。特に、より良い集団づくりという点について考えを深めることができた。自身の経験や悩みを個人だけでなく集団で共有し、生徒はもちろんだが、教員の集団づくりにおいても生かせるように臨みたい。また、教員としての強み・弱みについての演習では、日頃感じていることに対して、他の研修者の先生方から感想や意見をいただき、言い換えや違う捉え方もできると気付かせてもらった。このようなことから、組織的に取り組むことの意義を体感できた。加えて、自己改善はもちろんだが、目指す教育の在り方を全体で共有し、組織的に取り組んでいくための発想や技量が自分には足りないと感じた。教員として行動・発言等に隙が生じていないかどうかについても、見つめ直す機会ともなった。本日の研修内容とあわせ、日々の実践で示せるよう精進したい。

II期の授業研修では、新科目「歴史総合」の目的や重点ポイントについて、改めて確認・考察する機会が得られた。その上で研修当日は他の先生方から沢山ご意見をいただき、新科目ならではの課題と、自身の教員としての課題について、焦点化できたと考えている。今回は他教科の先生方との協議が中心であったため、新鮮な指摘や授業者の意図とは異なる感想をもらえ、授業改善のヒントを教えていただいた。授業構成や生徒への声かけ、まとめの方法などに繋げていきたい。その後の地歴公民科の協議では、授業のねらいや授業者の目的、思いについて意見交換を行うことができた。また、新科目についての接続にも触れつつ、単元毎に授業を考え、構成をつくる重要性を再確認した。話し過ぎ、羅列的という点は私自身の課題の1つであるので、自教科・他教科いずれの視点からもいただいた意見を、気付きと合わせて反芻し、実際の授業で発揮できるよう努めていきたい。

## 5 おわりに

今回5年目研修時の報告を読み直したが、過去の自分から叱咤激励を受けた。反省とし今後に繋げるために、これからも考え議論し見直す時間を失わないようにしたい。最後に、研修に加え、様々な場面でご指導ご支援いただいた多くの先生方に改めて感謝申し上げます。

# 中堅教諭等資質向上研修の報告

石木田 将宗

## 1 はじめに

今回の研修は、自身の教員生活10年間を振り返るとともに、今後のキャリアを見つめ直す絶好の機会となった。今年度実施した研修について要点を絞って報告していきたい。

## 2 研修報告

### ① センター研修

今年度の研修はこれまでの研修を総括した内容が多かった印象が強い。特に印象に残った研修は「高い専門性に基づく教科指導の充実と推進」で、同じ教科の先生方や他教科の先生の授業を参観できる良い機会となり、改めて生徒の理解力や個性と授業内容や進め方のバランスが大事であると感じた。それぞれの先生方の授業では、当然ながらこれまで研鑽したり悩んで改善したりしてきたテクニックや生徒への臨機応変な対応が盛り沢山で、たいへん参考になった。授業改善は、教員である以上欠かすことのできないものであり、時間が経つにつれて差が出てくると思うので、日頃から意識をしっかりと持ち取り組んでいきたい。また、今年度からの勤務校はこれまでの勤務校とは違い、四大進学者が多く、生徒の実態が大きく異なる環境になった。研修において進学校での授業を参観したことで、教材研究がこれまで以上に重要であると感じた。勤務校はもとより、様々な学校での授業参観を通じて、豊富なアイデアや多様な視点を学び、深い学びを実現できる授業実践を行えるよう、日々研鑽していきたい。

### ② 授業研修

今年度は数年ぶりに他校に赴いて他校の生徒を相手に授業を実践する形式となった。同期の先生方の技術の向上ぶりや落ち着いた授業展開など、とても新鮮に感じ、自身授業改善や今後の様々な業務に当たるモチベーションの向上につながった。今年度は授業を参観する機会を十分に確保することは難しかったが、今後も参観する機会を設け、継続して授業改善に努めていきたい。

### ③ 特定課題研究

本校の前期および一般選抜の高校入試の数学の点数と共通テストの相関関係について、調査した。以前から関心を持っていた内容だったが、普段はなかなか研究する時間も取れないため、貴重な機会となった。研究結果を今後の業務に生かし、諦めず粘り強く指導に当たっていきたい。

## 3 おわりに

いわゆる年次研修はこれで一段落するわけだが、当然ながら、様々な面について自身の資質向上に努める必要があることを改めて感じる1年だった。今後の方向性は正直なところまだ全く見えていないが、自身が置かれた環境でチャレンジ精神を忘れずに、絶えず研究と修養に励み、中堅教諭として貢献できるように努めていきたい。

# 中堅教諭等資質向上研修の報告

田畑 隆之

## 1 はじめに

教員生活11年目の今年、中堅研と3年担任の両立は予想以上に困難に直面し、関係各位に助けていただきながらの1年であった。今回の研修は、自身の教員生活10年間を振り返るとともに、今後のキャリアを見つめ直す絶好の機会となった。

本研修ではセンター研修や校内研修をはじめ、さまざまな研修を受講することができたが、紙面の都合上、本稿では私が最も印象に残っている選択研修について報告する。

## 2 研修報告

選択研修では、日頃からお付き合いがある山城運動具店様にご指導いただいた。直接顔を合わせたり電話でやり取りしたりすることのできる業者の最大の強みを大切に、受注から納品まで丁寧かつ迅速に対応する姿を目の当たりにした。昨今の通信販売の台頭による影響を理解しながらも、地元業者だからこそできる仕事の丁寧さと速さを大切にすることで、他の同業者との違いを明確にしようとしている点に感銘を受けた。

授業研修では、秋田南高校の生徒を相手に、他の研修者とTTで授業を行うこととなった。なかなか打ち合わせの時間が取れない状況であったが、授業のねらいや構成に関してはしっかりと準備ができた。しかし、生徒の反応を見ながら対応を変え、改めて指示するタイミング等、運用上の反省点を多く感じた。生徒との日頃からの関係性の構築の重要性と、教師の声かけや反応で授業の進行が大きく変わることを改めて感じた。

特定課題研究では、ICTの様々な場面での活用を研究対象とした。新型コロナウイルスの影響を入学時から大きく受けた学年を担当した3年間であったが、影響は必ずしも悪いものだけではなく、GIGAスクール構想の後押しもあり、学校内での情報機器の充実が急速に進んだ。教科指導、学級経営、部活動指導をはじめ、あらゆる場面で情報機器やアプリケーションをあえて活用し、その有用性を確かめる1年とした。業務の効率化や学習の深化の助けになる機能を知ることができる一方で、しっかりと顔と膝を突き合わせてやり取りすることの重要性にも気づく機会となった。状況と目的に合わせて手段を正しく選択したい。

オンラインを含め、年間で5回実施された教育センターでの研修では同期研修者との協議や演習を通して、それぞれが抱える悩みやこれまでの成長を共有することができた。昨今、教職はいわゆるブラック業界の烙印を押され、志望者と教員採用試験の倍率は低下している。研修中のあるセッションでは、グループ内の過半数が転職サイトに登録していることを耳にし、驚きを禁じ得なかった。しかしこれは現実であり、現状を変えない限り後続く世代は悪化の一途をたどることが目に見えている。後輩たちが希望を持って職務に取り組めるよう、中堅教諭としての働き方を体現していきたい。

## 3 おわりに

1年間の研修を経て、私自身数多くの方々との縁や助けがあつてここまでやってこられたことを強く実感した。研修当初は自分が誰かに助言・指導なんておこがましいと感じていたが、自分も誰かにとっての良い縁であったり、一助となったりすることで、これまでご指導頂いた方々への恩返しとしたいと感じた。末筆ではあるが、感謝申し上げたい。

# 中堅教諭等資質向上研修の報告

畠山 智道

## 1 はじめに

早いもので採用されてから11年目を迎えた。日々の業務に忙殺されることも多いが、今回の研修では、自身のこれまでの教員生活を振り返るとともに、今後どのようにキャリアを積んでいくかを考える大きなきっかけとすることを目標に臨んだ。

## 2 研修報告

### ① センター研修

オンラインも含め、全5回の研修であった。特に印象に残っているのは、「高い専門性に基づく教科指導の充実と推進」である。映像ではあったが、互いの授業を参観し合い、改めて授業の様々な方法について研究することができた。私自身、常に授業改善ということを念頭に置いてはいるが、この授業改善を第一に行うことの大切さに改めて気づくことができた。現在の勤務校においては、レベルの高い内容の教材を扱うこともあるため、日々の教材研究を継続し、常にアップデートされた状態を維持していきたい。また、その他の研修においては、「ミドルリーダー」としての役割の重要性について学んだ。中堅教諭として学校経営にも関わる時期であることを実感することができた。

### ② 授業研修

秋田中央高校の2年生を対象に授業する機会をいただいた。センターでの研修の内容もふまえ、同期の先生方で情報共有をしながら指導案作成に臨み、実際に授業を行うことができた。基本的には50分をペアになって授業を行う形であったが、私は一人で授業を行った。教材研究にじっくりと取り組み、初めての生徒相手でも落ち着いて授業を行うことができた。授業を行うには日々の研鑽が重要であることに改めて気づいた研修であった。

### ③ 選択研修

公共図書館ではどのように運営がなされているかを学ぶため、大館市立栗盛記念図書館で研修を行った。タイミングが悪く、イベントや移動図書館がない時期であったが、図書館の基本的な業務について学ぶことができた。図書館の仕事のひとつひとつは地味なものではあるが、利用される方々のために丁寧に取り組むことが大切であることに気づいた。この学びを学校図書館においても活用していきたい。

### ④ 特定課題研修

選択研修の内容もふまえ、学校図書館の利用向上を目指した研究を行った。前年度から貸出冊数や利用人数、授業での図書館利用を増加させるための方法を、学校司書や図書委員と協力して考え、実行することができた。その結果、前年度よりも貸出冊数や利用人数を増やすことができた。この取り組みを継続し、来年度も学校図書館の活性化を図ってきたい。

## 3 おわりに

今後は校内においてリーダーシップを求められる場面も多くなる。今回の研修の成果をふまえ、ミドルリーダーとして学校経営にも参画していくことを目標としたい。今後も教員としての資質向上に努め、生徒とともに学び合う教員を目指していきたい。

# 編 集 後 記

今年度も本校研究紀要「道標」第33号の発行に際し、お忙しいなかご寄稿いただいた先生方に感謝申し上げます。

今年度も昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大が学校の教育環境に大きな影響を及ぼした1年でありました。授業時のマスク着用や、各種研修の中止・延期など先生方の負担も大きいものがあったと思います。「アウトプット活動を通して学習事項の深い理解と知識の定着を図る」をテーマとして実施された校内授業研修では、教科の枠を超えて授業参観・協議会を行い、指導方法や学習スタイル、ICT機器の効果的な活用方法などについて、活発な意見交換がなされたものと思います。今年度の1年生から年次進んで実施されている新学習指導要領では、資質・能力を生徒一人一人にしっかりと育むために、「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善を行い、授業の質を高めることが必要とされています。今年度の校内授業研修会や授業参観を通して得たものを、今後の進路指導や学習指導に活かしていかなければなりません。

また、今年度も実践的指導力習得研修(2年目)、教職5年目研修、実践的指導力向上研修、中堅教諭等資質向上研修と、多くの先生方がそれぞれの研修を積み、その成果を報告してくださいました。

時代の変化とともに、教育に求められるものも変化します。生徒を指導する教育の専門家として、私たち自身が変化を拒み、一つのところにとどまっているわけにはいきません。常に向上する姿勢を失わずにいたいものです。多忙な職場ではありますが、研修や日々の実践を楽しみながら、教師としての力量を高め、活力に満ちた教育活動に今後も励んでいきたいと思います。

最後に、この冊子が皆様の研修活動に少しでもお役に立てれば幸いです。

## 研究紀要「道標」第33号

発行日	令和5年3月24日
発行者	秋田県立大館鳳鳴高等学校 秋田県大館市字金坂後6